



一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会(UCDA)は、07年に設立。視覚情報伝達の領域に人間中心設計の考え方を導入。「見やすく、わかりやすく、伝わりやすい」デザインで、帳票やWeb画面などの改善を支援し、その研究と評価を行って来ている。UCDAの福田泰弘理事長に現在の活動状況を聞いた。

## UCDA

理事長

**福田 泰弘氏**



ふくだ・やすひろ  
兵庫県出身、75歳。  
59年凸版印刷入社、  
トッパン・フォームズ  
の社長、会長を経て  
09年11月から現職。

者の間で行われ、理解しやすいなど情報がよく整理されているコミュニケーションの伝達効率を高める研究を行い、双方の利益に貢献することを目指している。活動の「特に金融分野では、顧客に商品の中身や契約内容を正確・的確に理解してもらうことが不可欠だ。他の業界に比べて規制が多く、商品も複雑化している。ユニバーサルデザインが今後のキーワードになってくるだろう。金融機関が伝えたい情報を、顧客一人ひとりに分かりやすく伝えることができるよう、専門的な立場から支援を行っている」と話す。

「UCDAを設立者になかなか理解して貰えないジレンマがある。こうした問題を解決するために、大学で『契約内容のお知らせ』の提供を受けて、研究者やデザイナーの専門家などが中心となって設立した」

# 「人ひとりに分かりやすく」

## デザインの改善で支援

「企業・団体と生活者」が自身の契約内容を理解しやすくなること、金融機関が伝えたい情報を、顧客一人ひとりに分かりやすく伝えることができるよう、専門的な立場から支援を行っている。現在、UCDAは「企業・団体と生活者」が自身の契約内容を理解しやすくなること、金融機関が伝えたい情報を、顧客一人ひとりに分かりやすく伝えることができるよう、専門的な立場から支援を行っている。現在、UCDAは「企業・団体と生活者」が自身の契約内容を理解しやすくなること、金融機関が伝えたい情報を、顧客一人ひとりに分かりやすく伝えることができるよう、専門的な立場から支援を行っている。